

ビジネスインパクト研究会(平成20年度第3回)

議事録

2008.11.17 18:00 ~ 20:00

(株)三菱総合研究所

1開会

- ・16名参加。
- ・前回研究会のレビューを行った。

2情報提供

(1)全労災における災害対応経験

- ・全労災渡辺氏による標記の情報提供。
自然災害(風水害)の被災者対応
- ・2006年台風13号の被災者対応を紹介。
- ・被災直後に全労済ホームページや新聞広告でお見舞いと保険金請求に対する案内その他プレスリリースを行う。被災した組合員全員に案内の葉書を送る。
- ・数千件の住宅被害が発生する場合があります、被害件数に応じて近隣より順に応援要請を行う。
- ・現地での被災調査は2名1組・1班25組構成で実施する。
- ・被災調査は、加入者のメンタルヘルスケアを兼ねている。

地震被害の被災者対応

- ・新潟中越沖地震の被災者対応を紹介。
- ・被害が大きい場合は食料を提供し、被災支援を行う。

被災者対応に対する質疑応答

以下、代表的な質問を記載。

Q1:災害避難法と連動しているか?

A1:自社マニュアルを基準に被災調査を実施する。

Q2:プレスリリースはどこでどのくらいの期間で作成するか?

A2:東京本部で1週間以内に作成する。

Q3:現地での交通規制に対する対応は?

A3:現地で通行許可を申請し活動を行う。

Q4:現地調査を行う拠点はどのように確保するか?

A4:近隣の自社関連施設を拠点とする。宿泊施設を拠点とする場合もある。

(2)ガードナーBIAモデル

- ・東京海上日動リスクコンサルティングの渡辺氏による標記情報提供。

モデルの概要

- ・ガードナーとはICTコンサルを行う会社で、BIAテンプレートを作成する目的で連携した。
- ・主な目的は、重要業務停止が財務に及ぼす影響 実稼働できる復旧委員数把握 RTOの把握、である。
- ・重要業務担当スタッフに質問を行い、課題抽出を行った。

- ・7日以上重要業務が停止すると、財務に与える影響が大きくなる結果が出た。
- ・リスク種類を想定していない特徴がある。

質疑応答

以下、代表的な質問を記載。

Q1:重要業務の選定方法は？

A1:本日は未公開だが指針はある。

Q2:リスク分析は実施しないのか？

A2:BS25999 同様に、海外企業はリスクを想定しない傾向にある。

Q3:重要業務の優先順位はリスクの種類により異なるのか？

A3:脅威の種類に順ずる。

3 今後の進め方

(1)BIA 試行ルール

・目的は参加者全員が BIA に関する基礎知見を得て、個別課題の抽出につなげることである。

(2)スケジュール

・本年 11 月～来年 5 月まで段階的に検討を進める。

(3)試行体制

・メンバーを3分析チーム + 1コントローラに分割し進める。

(4)進め方

・分析チームは BIA 作成に関する設定条件をコントローラに要求し、チーム単位で作成した結果をコントローラと協議する。

(5)モデル企業

・K 園(株)の K 園業務とする。

(6)次回

・12 / 19(金)17 時に研究会を開催し、引き続き忘年会を行う。